



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第18号
令和3年 7月20日

10歳の私たちができること

～ 4年生 “届けよう、服のチカラ” プロジェクト～



4年生は、社会科の学習で「ごみの処理と利用」について学習してきました。八千代市では、1日にどのくらいのごみが出て、どのように処分されたり、再度資源として生まれ変わったりしているのかを調べ、ごみを減らすために4R（リデュース、リユース、リサイクル、リフューズ）の活動に取り組む有効性を知り、10歳の自分たちにできることを考えてきました。その中の一つが、服のリユース（繰り返し使うこと）です。

これまで、大和田南小学校では、ユネスコスクールとしてESD(Education for Sustainable Development)の略で「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」を推進していくために「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」に毎年取り組んできました。しかし、昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、その取組ができませんでした。現在も感染拡大の状況は変わっていませんが、今年度は、感染拡大防止を図りながら、新しい生活様式の中での学習活動も定着してきたため、活動を再開することとしました。

7月6日に(株)ユニクロ フルルガーデン八千代店の方に来ていただき、お話を伺うことができました。世界中では、戦争や災害などにより避難生活を送る人の数は約7,950万人以上いること、生きていくために必要な衣・食・住など必要なものを十分に持てないまま避難している人たちのうち50%は子供であることなどを教えていただきました。

また、私たちにできることの一つとして、服を本当に必要としている子供たちに、一枚でも多くの服を届けるプロジェクトがあることも教えていただきました。

4年生の子供たちは、自分たちにできることとして、このプロジェクトに取り組んでいくことにしました。集めるのは、子供服です。1学期は、「いつ」「どこで」「だれに」「どんな方法で」集めたらよいのかなど活動計画を立てるところまで進みました。

学習後、子供たちはお礼の手紙を書きましたのでいくつか紹介いたします。※抜粋

・SDGsは、知っていたのですが服のチカラプロジェクトが12番の目標、つくる責任、つかう責任に当てはまっていると知ってびっくりしました。(杏奈さん)



- 服を着られない人もいることを知って、「自分がどれだけ幸せか」と思い、難民の人が私たちと同じ生活に戻れるように、ぜひ、服のチカラプロジェクトに参加したいと思いました。(美結さん)
- 服のチカラプロジェクトは、「集める」→「分ける」→「届ける」の順になっていることがわかりました。「分ける」は、着られる服をリユースして、着られない服はリサイクルしていることがわかりました。(梢愛さん)
- 自分が一番驚いたのは、ペットボトルを細かくして服を作っていることです。もっと服のことを知りたいです。服のチカラプロジェクトを自分もしたいなと思いました。(明久さん)
- 服のチカラは、けがを防いだり、病気になるのを防いだり、身を温めたり、おしゃれを楽しめたりすることを知りました。(和奏さん)
- ぼくの家では、使わない服を家で保管して、服のチカラプロジェクトのときに持っていったりしています。(皓大さん)
- 私は、今まで難民の人たちのことを思ったことがありませんでした。でも、難民の人たちの話をお聞きし、自分と不平等だと思いました。私はユニクロの皆さんのように服を集めて難民の人たちを少しでも幸せにしたいです。(奈々さん)
- ぼくは、ユニクロの人たちに教えてもらうまでは、服を家の中であげていただけ、まさかそれが一番いいとは知りませんでした。これからも服を大事にしていこうと思いました。(千晃さん)
- 服の70%がペットボトルからできていることに驚きました。服のチカラで地球の人々も幸せになれるなら、昔の服がいっぱいあったのであげたいです。(蒼天さん)
- ぼくは、難民の数が7,950万人もいて、その半数が子供だなんてびっくりしました。だからこそ、いっぱい服を届けていきたいと思いました。(拓人さん)
- 授業では、服の大切さなどSDGsのことは疑問がいっぱいあったのですが、ごみのことや服のことを知ると、4Rのことだとわかった気がします。これから、服のことなどいろいろなものを大切にしていきたいです。(大翔さん)
- 前は、自分が幸せならそれでいいと思ってしまっていたけれど、この学習で難民の人たちのことや服のチカラなどのことを教えてもらって、難民の人たちは何も悪いことをしていないのにかわいそう、幸せになってほしいと思えるようになりました。難民の人たちがどうしたら幸せになれるか考えていきたいです。(絢さん)
- 今まで私は、食べ物や住む場所が大切だと思っていただけ、服も一人の命を救うためにとても大切だと知りました。服のチカラプロジェクトでは、年間約1,000万着もの服が集まっているのに、難民の8人に1人にしか服が届けられていないのが悲しかったです。だから、ちらしなどを書いて、たくさんの人にこのことを知ってもらいたいです。(智美さん)
- 服のチカラプロジェクトのことを勉強して難民のためにできることはないか考えられました。ごみの学習でやったこととつながっていて、リユースしたいと思いました。(理央さん)
- 今回の授業で服のチカラプロジェクトとSDGsが大きにつながっていることがわかりました。着られなくなった服で難民が助かるとわかったので、着られなくなった服で難民の人たちを助けたいと思いました。(陽太さん)
- 世界には、難民の人たちが日本の人口の半分もいたなんて驚きました。今わたしがやっている社会科のごみの学習とつながっていることも驚きました。1,2年生のとき服のチカラプロジェクトをやっていて、そんなことを考えていなかったけれど、「命を救いたい」という気持ちも深まりました。(心愛さん)
- おしゃれも必要だけど、もらった服も着ようと思います。(実緒さん)
- 今まではそのまま服を捨てていたけれど、話を聞いて服を大事に着ようと思いました。これからは、リサイクルできる素材で作っているものを買ったり、リサイクルしている店に持っていったりしたいです。将来、リサイクルできるものを増やして、服の素材に使いたいです。(結愛さん)
- 私は、SDGsに服がつながっていること、難民などの意味を知ることができて、とてもよかったです。社会科の授業で、ごみについて学習したのですが、服もそこにつながるというのは考えもしませんでした。これからは、服を大切に使おうと思いました。(優奈さん)
- SDGsの目標の3番と10番と12番と16番がつながっていることがわかりました。そして、すべて17番につながっていることがわかりました。(弘輝さん)
- ぼくはこの授業で服の役割、大切さについてわかりました。服を捨てるだけで、大気汚染、環境問題になってしまうのをはじめて知りました。なので、服を大切にしたいです。(陸さん)